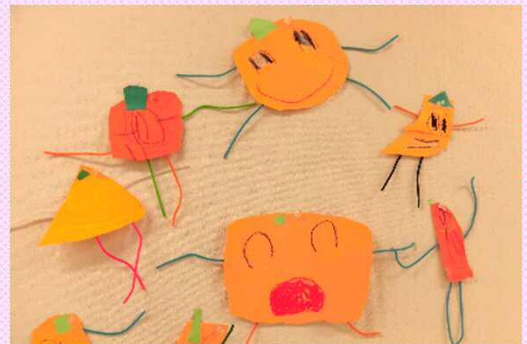


<ダイジェスト版>

芦屋市立岩園幼稚園

3歳児保育の取組より

～3歳児ってこんなにおもしろい!～



令和 4 年 8 月
芦屋市教育委員会

待ちに待った3歳児保育

3歳児保育が始まりました。ところが・・・



入園当初・・・

- ・ 着替えや身の回りの始末に時間がかかってすぐにお片付けの時間になってしまう・・・！
- ・ 「イチゴの絵をかこう」としても絵の具遊びになってしまう・・・！
- ・ オムツの子が多くてトイレの指導ができない・・・！
- ・ 絵本を読む時もなかなか気持ちが集まらない・・・！
- ・ 「さあ今からみんなで遊ぼう！」という時に疲れて遊べない子が・・・！



そこで・・・

個々に寄り添う

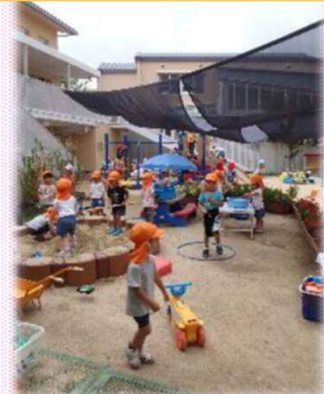
- ・ 「好きな遊び」の時間を長くとりゆったりとした中でそれぞれ満足するまで遊べるように
- ・ 片付けも 急がせたり無理にさせたりせずに自分が納得して片付けられるように
- ・ 片付けの後 お部屋で寝転がる遊びを入れるなど「静」の時間を工夫
- ・ できるだけパンツにしてももらい失敗してもいい雰囲気を大切に

それぞれ興味をもったことを満足するまで 繰り返し遊ぶ



思い切り楽しむ

3歳児保育室前の遊ぶスペース



形にしようとしな

- ・ 水や泡などを使った感触・感覚遊びを大切に
- ・ 絵や制作では、過程を存分に楽しめるように



せっけん
ぬるぬる ふわふわ・・・

ペタペタ
楽しいね...



もっと
コロコロ
しよう！



ダンゴムシをつくらう！



ダンゴムシ
ダンゴムシ



お父さんダンゴムシと
お母さんお兄さん...



目で見てわかる援助

- ・ ペープサート(紙人形劇)など目で見てわかるものを使うと、気持ちが集まる。



卵の中から絵本
が出てくると
みんな大喜び！

2学期になり運動参観日に向けて遊びが始まりました。

運動参観日に向けて「ゆうちゃんのみきサーシャ」のお遊びが始まったよ。

「ぼくたちも ミキサー車つくろう」色々な廃材を使って作るのがとても楽しくなりました。



すごいね！



ぼくの
ミキサー車
できたよ

遊びと行事をつなげる

リズム表現「ゆうちゃんのみきさーしゃ」の遊びより



はちみつ
どうぞ

私 ミキサー車



アイスクリーム屋さんごっこ



運動参観日当日、子どもたちが
作ったミキサー車を外に飾って

運動参観日のリズム表現「ゆうちゃんのみきさーしゃ」の遊びでは、自分たちで、色々な廃材を使って、ミキサー車を作ることが大好きになりました。運動参観日には、子どもたちが好きな遊びをつなげて、見てもらいました。

3歳児の砂場を変える

3歳児専用砂場で遊ぶことが大好きな子どもたち。でも、遊びがその中に限られてしまいます。砂場の周りを低くすることで、周りとの行き来をできるようにすると、遊びが広がっていきました。



3学期、初めての劇遊びです！

劇遊びでは、役があることで、言葉のやりとりを楽しむ姿が見られました。参観では、保護者も遊びに参加してもらい、お話の世界を一緒に楽しみました。



保護者も一緒に

劇遊び「ねずみのでんしゃ」の遊びより



ちゅうちゅうごーごー



どれがおいしいかな

ブロッコリー
食べよう

異年齢交流

4歳児、5歳児との交流、そして、4月から同じクラスになる3歳児親子ひろば「さんさんひろば」の友達との交流をしました。好きな遊びでは、4歳児、5歳児の刺激を受け、自分たちで楽しむようになりました。



ピーナッツ工場



お団子づくり



「ぼくが教えてあげるよ」

子どもたちにこんな成長がありました！

令和3年度 3歳児 みかん組 1年間の成長

<大きな成長が見られたもの>

健康

- ・ 主体性(自分から～する) ・ 身辺自立(持ち物の片付け・トイレでの排尿など)

人間関係

- ・ 先生との信頼関係 ・ 友達関係(友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じる、友達に思っていることを伝える)

環境

- ・ 物との関わり(色々な物に興味をもち 繰り返し使って遊ぶ)
- ・ 自然との関わり(身近な自然物や事象に興味をもち 遊びに取り入れる)
- ・ 飼育栽培(小虫と触れ合ったり 花や野菜の生長を見たりすることで心を動かす、先生と一緒に世話をする)

言葉

- ・ 聞く(友達の話を聞こうとする)・ 話す(自分から友達に話をする)
- ・ 要求する(自分がしたいことやしてほしいことを言葉で伝える)

表現

- ・ 表現活動(自分の思いを体で表現しようとする)
- ・ リズムや曲に合わせて体を動かすことが好きになる
- ・ 自分でイメージしたものを描いたり作ったりすることを楽しむ

* 人間関係、言葉、表現は絡み合いながら成長しています。

* 3歳児は、自分の世界から、友達と共に遊ぶ楽しさを感じ始めます。もっと友達に思いを伝えたいという気持ちから、言葉の力が伸びます。更に、友達との関わりの中で、「友達のうれしい気持ちや悲しい気持ちを知る」「友達との感情の行き違いを経験する」など、少しずつ相手の思いに気付くようになっていきます。



「いやだ！」「貸さない！」まずは自分の思いを出すことを大切にします。このような経験を重ねながら、次第に相手の気持ちに気付けるようになっていきます。

「お友達と一緒に 楽しいな」
2学期後半の子どもたちの様子



令和4年度 4歳児 いちご組 れもん組 新入児(2年保育児)と進級児(3年保育児)の混合クラスでスタートしました

同じクラスに進級児がいることで、新入児にとってもこんなよいことが！

友達関係



* 同じ空間で遊ぶ心地よさ

4月、進級児は昨年度の4歳児、5歳児の姿を真似て、鬼ごっこの「鬼決め」を始めました。進級児にやり方を教えてもらいながら新入児も一緒に入ります。新入児は、進級児と同じ空間でいることが心地よく、楽しい様子です。

* 協同する

進級児が新入児に「ここ持って」「手を離したらだめだよ」など持つ位置や持ち方を教えながら、4人で力を合わせて1台の机を運ぶことができました。

* みんなで遊ぼう

園庭での「好きな遊び」の後、保育室で「クラスの遊び」が始まります。先生やクラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを経験している進級児は、わくわくしながら部屋に入ってきます。新入児がなかなか部屋に入らず外で遊んでいると「始まるよ。入っておいでよ」と進級児が呼び掛け、新入児が入ってくることができました。

* ルールを守って

進級児は、おもちゃを順番交代したり一緒に使ったりします。遊びや片付けなどでも、ルールの意味が分かり、守ろうとします。

* 周りが見える

先生が示したものを「見えない」とみんなの前に立って見に行こうとする新入児に、進級児が「座らないとみんなが見えないよ」と声を掛けました。新入児も座ってみんなで見ることができました。

* 見本となる

教師が指示したことに対して、進級児がしているのを見て、新入児がしようとするため、教師が繰り返し言わなくてもできます。

道徳性



挨拶



* 挨拶も楽しんで

朝、園長先生が門のところで保護者と子どもたちを迎えます。みんなが登園終わると、保育室の前を通過して子どもたちの様子を見ながら職員室に戻ります。その時、保育室の中から進級児が出てきて、「園長先生、さっき(よそのお母さんと)お話してたから、僕と挨拶してないよ」と声を掛けました。「あら！ごめんごめん。おはよう！」と園長先生が挨拶すると、それを見ていた新入児が「園長先生、ぼくも挨拶してないよ」とにっこり。「あら！ごめんね。おはよう！」と挨拶を返してもらい満足そうな新入児。それ以来、わざわざ「園長先生、僕と挨拶してないよ」と言う子が増えたのです。

人と関わる楽しさを知っていて、挨拶も遊びのように楽しめる余裕が進級児にはあります。その進級児を見て、周りの子どもたちも楽しんで挨拶をするようになりました。

3歳児がいることで4歳児、5歳児にもこんな育ちが！

<事例 1> 3歳児に見られると張り切る4歳児

運動会のリズム表現や劇遊び等、保護者に見てもらう前に子ども同士で見合います。4歳児の遊びを3歳児が見に来ると、4歳児がとても張り切っていていつも以上に頑張る姿が見られます。「すごいね」と3歳児に言われる**満足感**。3歳児の存在が、4歳児の**意欲**につながっています。

<事例 2> 3歳児には優しく、5歳児には甘える4歳児

4歳児は、3歳児には「やってあげようか」「貸してあげる」と声を掛け、自分の道具(例えばザリガニ釣りの道具)を使われても、使い終わるのを待っています。一方で、5歳児には、自分の使いたい遊具に対して「それ、貸してほしいな」と甘えた様子で頼んでいるのです。

4歳児にとって、優しくしたり教えられたりできる3歳児の存在と、憧れたり甘えたりできる5歳児の存在の両方があることで、**豊かな経験**ができます。3歳児と接することで、**思いやりの気持ち**や、自分が3歳児の**役に立ったという喜び**や**自信**、**自己肯定感**が芽生えます。



<事例 3> 3歳児と4歳児のお世話をする5歳児

5歳児は、3歳児と4歳児の体位測定のお手伝いをします。4歳児はできることも多いので、できそうなことは手伝わず見守っています。3歳児は、初めから全てやってもらうつもりでいますので、全てやってあげます。どのように手伝うかは、先生が教えなくても、自分たちで判断しているのです。

年下の子どもに、**思いやり**をもってかかわることに加え、相手に合わせて対応や手伝いの仕方を考えるという**多様性に対応する力**が身に付いています。

<事例 4> 3歳児に手作りのメダルをプレゼントする5歳児「メダル何色がいい？」

5月の「なかよし運動会」で、5歳児が、3歳児に色紙でメダルをごほうびに作ってあげることになりました。すると、作る前にわざわざ3歳児の部屋に色紙を持って、「どの色で作ってほしい？」と一人ひとりに尋ねにやってきたのです。「もらえるだけでうれしいのに。どうしてわざわざ好きな色まで聞いてくれるの？」と不思議に思った3歳児の担任が尋ねたそうです。すると・・・体位測定のお手伝いをした時に、「嫌なものは嫌」とはっきり示す3歳児の姿を目の当たりにして、自分の好きな色のメダルでなければ、「この色いらない」「いやだ！あっちがいい」と言われそうだと思ったようです。何色がいいかを尋ねる時も、実際に色紙があった方が分かりやすいと考え、持って来ました。

担任の先生からは何も言っておらず、「3歳児がいることで、こんなに自分たちで考えるようになるのだな」と、驚いていました。

この実践から、3歳児がいることで、**相手を理解し、対応を考える力**がついていることが分かります。

「がんばったね」5歳児からメダルをかけてもらうみかん組の子どもたち



3歳児保育を通して、4歳児、5歳児にも、生きる力として大切な非認知能力が育っています！

非認知能力

自信

意欲

役に立った
という喜び

自己肯定感



満足感

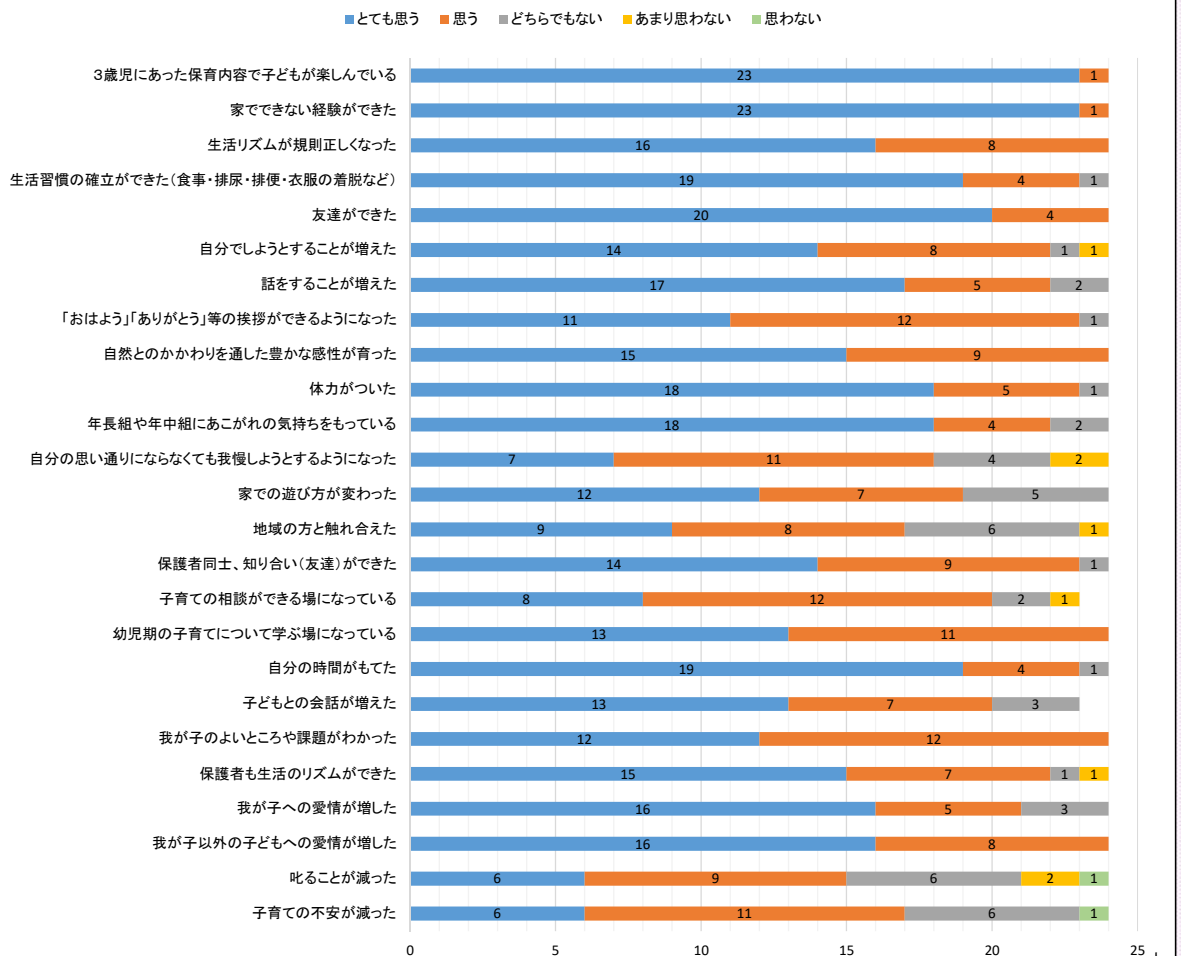
多様性に
対応する力

思いやり

相手の気持ち
を想像する力

保護者アンケートの結果(令和3年度末アンケートより)

3歳児から入園してよかったと思うこと



保護者アンケートの結果(令和3年度末アンケート自由記述より)

子どもについて、3歳児から入園してよかったと思うこと

同年代の**友達**ができた 友達と仲良く遊べるようになった 男女関係なく遊べる **社会性**が身に付いた 様々な人との交流で**刺激**を受け色々なことを考えられる機会がもてた **絆を深めた友達**ができ様々な状況をみんなで乗り越えられることに気付けた **社会とのつながり**がもてた(家以外でも安心して楽しく過ごせる)集団生活で色々な友達と接することで**学び**が増えた 集団生活で**ルール**を守ることの大切さを学び、思いやりの気持ちをもつことができた 自分はよくても相手が嫌なことがあることを本人なりに考えていて**思いやる気持ち**が育まれている 知らない友達がいっても入って行こうとするようになった 人見知りがなくなり誰とでも話せるようになった **言葉**が増えた 色々なことに**興味**をもつようになった **様々な体験**ができた 生活の面で**自立**が見られる 自立心が芽生えた 自分の身の回り(トイレ等)を進んでするようになり親の不安感がなくなった 新しい環境での**順応力**がついた しっかりしてきて**我慢**できるようになった 上の学年の真似をするなど**吸収**していることを感じる トイレトレーニングがスムーズにできた 生活リズムができ**早寝早起き**ができるようになった 弟に**優しく**できるようになった 幼稚園のことを家で嬉しそうに話したり歌ったりする 家ではできない経験ができた 行事や誕生会などで子どもが**わくわく楽しんでいる** **季節の行事、伝統行事**(もちつき プールなど)ができた **規則正しい生活**になり、テレビを見る時間が減った **自然との関わり**を通して**豊かな感性**が育った

保護者の立場でよかったこと

先生方から、**年齢に合った声掛けや接し方**が学べた 我が子の**よいところや課題**が分かった 子どもが毎日生き生きと嬉しそうに通う姿がうれしい 離れることで、親も子ども**余裕**が生まれた **下の子との時間**が持てて助かった 他の保護者の方と話せて**気分転換**になる **自分の時間**が持ててよかった

3歳児についての感想

伸び伸びとした遊びを中心とした保育がよかった **異年齢との関わり**で楽しさや学びがたくさんあった 幼稚園の遊びを家でするなど、**コミュニケーションが増えた** **同じ年齢の友達**ができて本当によかった たくさんの経験で、**親も子ども成長**できた 3歳児保育を継続させてほしい **生活リズムが整った** **子ども同士のつながり**が生まれた **我が子の特徴**を教えてもらえる **年齢にあった声掛けや接し方**を教えてもらえた **先生方の接し方**から見て**学べた** **世界が広がった** 弟に優しくなった ぜひ芦屋のすべての幼稚園で3歳児保育をしてほしい 先生や友達を見て**自分から取り組む**ようになり、親としてマイナスな気持ちが少なくなった たくさんの気付きや楽しみをもらった 何より子どもが楽しそうに日々**成長がより感じられた** 先生方がとてもよくみてくれ**感謝**している **言葉**を使ったコミュニケーションがとれるようになった 成長により面がたくさんある 毎日子どもが**生き生き**と幼稚園に通う姿がうれしい **言葉が増えた** 歌や手遊びもたくさん覚えた 早くから集団生活を体験できてよかった 3歳でも立派な社会の一員だと感じるようになった 3歳から**家庭ではできない経験**をすることで、**たくさんの感情**が芽生えてよかった 子どもにとっても親にとってもプラスになることが多い 親にたくさんの楽しみや気付きを与えてくれた 親子ともども**多くの学び**があり**成長**できた 家庭では与えられないものがたくさんあり、1年の成長はありがたかった

市内の教育・保育施設との連携

3歳児保育を行うことで、3歳児の発達に適した環境構成や援助などについて、市内の就学前教育・保育施設の先生方と共に考え合う機会が持てました。

今後も、岩園幼稚園の公開研究会や、3歳児保育研修会の開催などを通して共に学び合い、芦屋の就学前の子どもたちを育てていきたいと思えます。

特別支援教育の取組

市立幼稚園では、特別な支援を要する幼児に対して、それぞれの状況に応じて、加配教諭・支援員・看護員を配置しています。クラスの中で一人ひとりに応じた支援を受けながら、一緒に保育を受けることで、大きな成長が見られています。

岩園幼稚園においても、次のようなことを大切にインクルーシブ保育について取り組みました。

- 3歳児から集団生活の中に入ること、その子にとっての成長が助長されます。
- 特別な支援を要する子も、3歳児から地域の幼稚園に通うことで、地域の友達ができ、地域で育っていくことができます。
- 周りの幼児も、3歳から支援を要する幼児と共に育ち合うことができます。3歳児は、友達のことを肌感覚でとらえ、また周りの先生を見て関わり方を学んでいます。
- 保護者が、子どもの成長や課題について早くから知ることができ、その子に適した接し方ができます。

3歳児保育の取組を通して感じたこと

3歳児保育を通して、「3歳児」についての幼児理解が深まりました。

3歳児は、自分だけの世界から、少しずつ周りの世界に興味・関心が広がり、人との関わりが生まれ、探求心や意欲が芽生えていきます。そのため、できるようになることを急いだり、教えたりするのではなく、それぞれの思いに寄り添って、自分が納得するまで繰り返し遊びを楽しめるような環境や援助が大切であることがわかりました。

このような発達にふさわしい保育を受けることにより、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、これからの世の中を生きていくために大切だとされる、好奇心や意欲、思いやり、粘り強さなど「非認知能力」が育っていくと考えられます。

岩園幼稚園では、そのための環境構成や援助について、日々の保育の中で、幼児の姿から丁寧に見直しました。それは、3歳児だけでなく、4歳児、5歳児にとってのふさわしい環境構成や援助を見直すきっかけとなり、他の市立幼稚園への発信へとつながりました。

3歳児がいることで、4歳児、5歳児に、年下の子どもに対する優しさや思いやりだけでなく、多様な相手に対応する力が育つことを、改めて感じました。

市立幼稚園に求められる役割の一つとして、市内の幼児教育のセンター的役割があげられます。私たちは、これからも3歳児保育についての研究を進め、その中で得られた知見を、市内すべての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供ができるよう、共に芦屋の子どもたちを育てていきたいと思っています。